



社会医療法人近森会

発行

2014年10月25日

# びろっぱ 11

Vol. 340

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇



## 新電子カルテシステム への更新

システム管理室  
室長 長山 信夫

近森病院で稼働している電子カルテシステムについて、3回目の更新を10月10日（金）夜～13日（月）朝にかけて行いました。今回の電子カルテシステムの更新のトピックとしては、下記の項目があげられます。

### レスポンスタイムの向上

基幹ネットワークの入れ替えにより、2GBから20GBへ通信速度向上を図り、放射線画像や動画にも耐えうる基盤整備をしました。また、5年経過したサーバ機器や端末の入替、及び電子カルテシステムのバージョンアップによるレスポンスタイム改善を行いました。

### 医師によるオーダ追加

病理オーダ、外来注射オーダ、化学療法オーダ、クリニカルパス、リハビリオーダ追加により、転記ミスをなくし、医療安全向上を図りました。

### 新サーバ室

新電子カルテシステムは、免振構造で電源・空調ともに十分な能力を備えた新サーバ室へ設置しました。今後は更新を迎える部門システムを順次新サーバ室へ移設する計画です。

### Windows7へ更新

これまで使用していた電子カルテ端末は、MicrosoftのWindowsXPという基本ソフト

(OS)上で動作していました。すでにサポートが終了しており、今回の更新を機にWindows7へバージョンアップを行いました。

### 診療時間の短縮に

トピックとしてあげましたレスポンスタイムの改善は、患者さんにとっては医療者側にとっても診療時間の短縮につながりますので、最も重要な点になります。近森会では多職種が治療に関わるチーム医療に力を入れていますので、情報共有の面でも大きな意義があると考えております。

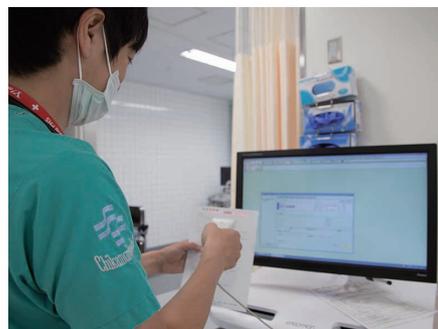
### 新電子カルテシステムの稼働

13日（月）朝から無事に新電子カル

▼新しいサーバ室

ルテシステムが稼働しましたが、ご迷惑をおかけしている部署もあり、課題につきましては随時対応を行ってまいります。

ながやま のぶお



▲外来での注射実施入力において、診察箋と注射ラベルのバーコード読み取り3点認証が始まりました



## 第1回地域医療連携懇話会 2014年9月29日

より良い医療連携の  
きっかけとして近森病院内科  
科長 市川 博源

今回、地域医療連携センターの地域医療連携の取り組みの一環として、院外の先生方を当院に招き、紹介していただいた患者さんの経過報告と、日常診療に役立つと思われるミニレクチャー、更にA棟、ER、ヘリポート見学をしていただきました。

この試みは地域連携室と医療相談室が、今年から地域医療連携センターに編成されたことと内科の中堅医師が地域の先生方とより顔の見える医療連携を行いたいとの思いがかさなり実行されました。

懇話会は少人数で行い、より密に話ができる方がいいと考え広く告知は行わず開催しました。

まず消化器内科の近森正康医師から紹介していただいた患者さんの経過報告を行い、その後循環器内科の山本哲

史医師から循環器全般について、神経内科の葛目大輔医師より内服抗凝固療法についてミニレクチャーを行いました。

ご紹介いただいた患者さんの経過報告は紹介状にて毎回報告させていたのですが、今回の会では入院してからの詳しい状態や検査データ、画像診断などを細かく報告させていただきました。またミニレクチャーでは最新の話や日頃の診療に役立つ形で伝えることが出来たと感じました。

最後に懇親会もあり日頃の医療連携の問題点や要望などより詳しい話が出来たと思います。

地道にこのような会を行うことで地域の先生方に信頼され、また当院も信頼できる地域の先生方とより良い医療連携を行うきっかけにしたいと考えています。

今後は当院の内科以外の先生方にも参加していただき、近森病院と地域の医療機関とのより良い連携を構築していきたいと思えます。

いちかわ ひろもと



▼ハイブリッド手術室の様子をモニターで見学



## リレーエッセイ

## 今年の夏は初盆が3件



近森病院内科秘書 山本 千晶

今年の夏は初盆が3件、地元土佐清水ではお盆の行事はとてとても重要なので、お参りやお客のお手伝い、恒例のおはぎ作りなどに走り回りました。

また実家周辺では迎え火といって、海や川などの水辺に先祖の霊が帰ってくるという場所を作り、お供えや松の根でできた小さな松明を焚くのですが、3日間のお盆の間、夕方ごとに行かなければならず、次は誰が



行くかも大問題です。

嬉しかったのは、娘が浴衣を着て盆踊りの輪の中に入ってくれたことです（恥ずかしがって一人では嫌だと私も引張られ20年ぶりに踊るはめになりましたが……）。「どうして

踊ったが？」と尋ねると、「(亡くなった) おじいちゃんが喜ぶがやる？」と言ってくれ、思わずほろりとしてしまいました。

昔おばあちゃんだった方も相変わらず元気なおばあちゃん、「もう無理よ～」といいながら好きな曲だけは踊っていたり、姉の友人からは「大きくなったね～」と言われ、友達の妹には「大きくなったね～」と言われ、自分が年を重ねたことを忘れるような不思議な空間でした。

昔は3日間行われていた盆踊りも今では1日だけとなってしまいましたが、やぐらに笹の飾り付け、遺影の並んだ祭壇に音の割れたレコードの曲、太鼓に囃し声、50円(!)のかき氷など、自分が子供の頃から変わらない光景が懐かしくて、子供顔負けにはしゃいで過ごしました。帰省した幼なじみとの再会も含めて、また来年のお楽しみです。

やまもと ちあき

# ～切る手術から、 カメラの手術、 そしてロボットへ～

近森病院泌尿器科  
主任部長 谷村 正信



今は昔、私が入局したころの、新人（ノイヘレン）の手術は、包茎の環状切除術、前立腺がんの除鞣術（今のようなLH-RHアナログなどの有効な薬はありません）や尿管切石術でした。オープンに言われるままに手を動かして、尿管切石術に至っては、ここ掘れ

ワンワンの状態で、前立（まえだち）の指導医が筋鉤を巧みに動かすと、何ということでしょう、水尿管とともに目の前に嵌頓した結石がそこに見えるではありませんか。あとは尿管にスピッツメスで切開を入れ、結石摘出・尿管内の洗浄・尿管の縫合で終了。ちなみに、そのころの吸収糸はBSDの問題があり今では使われていないカットグット（腸線）でした。

私が入局した頃が、泌尿器科手術の変革期で、結石に対する開放手術から内視鏡手術へ移行する時期でした。結石に対するTUL（経尿道的尿路結石

破砕術）・PNL（経皮的尿路結石破砕術）が始まり、ESWL（体外衝撃波結石破砕術）も保険適応となり、入局して2-3年で、尿管切石術はほとんど見る事が無くなりました。しかしそれ以降、内視鏡手術も器具の進展が無く、次第にTUL・PNLは下火になり、結石治療はESWLの独壇場でした。しかし、ESWL単独では結石の治療は全て行うことは出来ず、内視鏡の進歩（CCDカメラ、HV化など）とともに再びTUL・PNLが盛り返し、現在は結石部位により最適な手術様式の選択が可能となり、患者さんへの侵襲は大幅に減っています（近森病院は高知で一番進んでいます）。

腹部・後腹膜の癌の手術も、開放手術から内視鏡手術（腹腔鏡・後腹膜鏡手術）へ、更にロボット補助下の内視鏡手術（ダ・ヴィンチ：da Vinci）へと変貌していますが、手術の基本は何ら変わっていません。

次回最終回は化学療法を

たにむら まさのぶ

## 11月の歳時記

### お茶の花（茶の木）

近森病院画像診断部

入交 玲名



葉を飲料とするので馴染みのある茶の木の花は、山茶花たちと同じ椿科で真っ白い花びらがたくさんの黄色いおしべを包んで、恥じらうようにうつむき加減に咲きます。

花期は10月～11月下旬ですが、咲いたままにしておくとならぬために人為的に取られてしまうそうです。そんな可憐な花を思い浮かべながらこれからの時期、熱い緑茶で一息つきませんか。

いりまじり れいな



絵・近森病院附属看護学校  
設立準備事務局  
公文幸子

## まさる 森田賢先生を悼む



### 近森 正幸

10月5日、画像診断部の森田賢部長が62歳という若さで亡くなられた。長い間共に近森で働いてきた先生に先立たれるのは、心を締めつけられる思いがします。今年12月には、五カ年計画が完成し、本館A棟には新たにIVR-CTが設置され、広くなった読影室も外来センターに移動、読影端末を増やして研修医に画像診断の研修の場をもっと与えてあげたいという森田先生の思いが、実現しようという矢先であっただけに残念でなりません。

先生が当院に赴任されたのは26年前の昭和63年のことで、当時は建物

も古く検査機器も画像が悪く、放射線科医としては劣悪な環境でありましたが、近森の未来を信じて自らの仕事に真摯に取り組んでくださると同時に、画像診断部の人的な充実尽力に尽力していただきました。画像診断の質の向上と効率化を進められ、まさに近森病院の医療の質を支え続けてくださったといえます。腹部食道周囲のごく少量のフリーエアから食道破裂と診断して救命された例など、先生のお陰で多くの患者さんの命が助けられました。

プライベートでは、大の犬好きで愛犬「フーちゃん」との朝の散歩が日課でした。スポーツ観戦も大好きで、母校の土佐高校が甲子園に出場が決まったときなど、始まる前からそわそわしてテレビの前で食い入るようにして応援されていました。奥様との共通の趣味はジャズを聴くことで、よく一緒にライブに出かけたりもしていました。

思い起こせばきりがありませんが、隣にいるだけでほっとするような温かみのあるお人柄でした。心よりご冥福をお祈りします。

理事長・ちかもり まさゆき

## インド整形外科国際学会 ● 8th International ASAMI conference 2014

アジア諸国では  
人工関節以外の治療に  
高い関心近森病院整形外科  
部長 西井 幸信

9月18日から21日にかけてインドのゴア（インド西海岸）で開催された8th International ASAMI conference 2014に帝京大学の松下隆教授を中心とする「難治骨折診グループ」のメンバーとともに参加させていただきました。

総勢8人で10演題の発表を行いました。ASAMIはAssociation for the Study and Application of the Method

of Ilizarovの略で、ロシアのIlizarov（イリザロフ）先生が考案したリング式の創外固定を用いて骨延長や変形矯正、

関節形成を行うイリザロフ法を中心に各国での研究・治療成績を発表する国際学会で2年に1回開催されます。

イリザロフ法で治療を行う疾患としては感染性偽関節などの難治性骨折や骨折後の変形治癒、変形性関節症、先天性疾患などがあります。

今回参加の多かったアジア各国では変形性関節症に対する治療として高価な人工関節以外の治療法に高い関心があるようで、我々のグループの寺本司先生が発表した関節内骨切りによる関節形成術は驚きと賞賛の嵐を巻き起こしていました。

そのなかには当院での症例も含まれており、発表後も各国の医師たちとディスカッションで盛り上がりました。各国での医療制度や社会的背景は様々ですが、国際的交流は有意義であり、モチベーションも上がります。

国際学会以外でも当科にこれまで2名の医師を海外から受け入れています。今後さらに国際的な交流が深まっていくことを期待します。

にしい ゆきのぶ

▼会場風景

近森会  
保育室 そると

10月26日（日曜日）、「そると」の子どもたちがたくさん参加して、春野の高知ハビリテーリングセンターの畑で芋掘りを楽しみました。



## ● お知らせ 医療従事者対象 ●

## ● 第139回地域医療講演会

「救急医療と漢方」

講師 静仁会静内病院 院長 井齋偉矢先生

日時 11月28日（金）19:00～20:30

会場 近森病院管理棟3階会議室



▲インド整形外科学会に参加したメンバーと

## 職員旅行 トルコ・イスタンブール

9月15日から9月19日まで5日間、トルコはイスタンブールの旅を楽しみました。



▲ボスポラス海峡をクルージング

▶水を入れると濁る不思議な酒ラクがトルコにある。含まれる薬草ウイキョウの精油が非水溶性であり析出してきたと考えた

(近森病院薬剤部・見元尚薬剤師)



▼地下宮殿にて



# 近森病院初の 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 2名誕生 [後編]



近森病院北館 SCU  
看護師 主任 岡村 瑠美

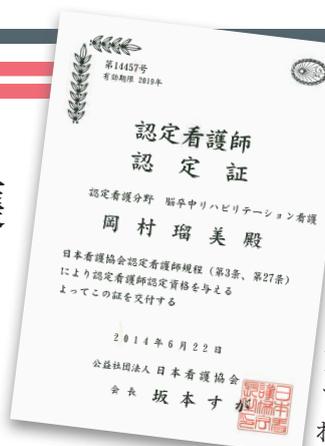
日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、近森病院で初めての脳卒中リハビリテ

ーション看護認定看護師となりました。昨年の夏から半年間、大阪府看護協会勉強会、急性期病院と回復期病院で実習を行いました。勉強できる喜びの反面、皆についていけないという不安もありましたが、同じ志を持った仲間ができ、他施設のシステムや教育なども知ることができました。今でもセミナーや学会に行きついで勉強しています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、脳卒中による機能障害のある患者さんのQOL向上を目指して、個別性、専門性の高い看護を実践することをはじめ、脳卒中患者さんのセルフケア能力を高め、生活の再構築を

行うリハビリテーション看護を実践することや、脳卒中リハビリテーション看護の専門的知識と実践力を基盤として、看護スタッフの指導、相談を行い、多職種と協働しチーム医療及び地域連携を推進するためのリーダーシップを取ることがおもな役割です。

今すべきことは、まずスタッフへの教育と考えています。根拠をもった



看護実践、得た知識や技術を指導していきながら看護の質を上げていくことを最優先しています。また、そこで満足せず看護実践を振り返り、更に良い看護が提供できるよう検討を重ねていきます。

その他、病院全体への脳卒中看護教育や患者さんやそのご家族への退院指導、ゆくゆくは地域への啓蒙活動も行っていきたいです。まだまだ未熟者ですが、自分らしく自分のペースで初心を忘れず頑張ります。よろしくお願ひします。

おかむら るみ

## 図書室便り (2014年9月受入分)

- 外傷専門診療ガイドライン JETEC / 日本外傷学会外傷専門診療ガイドライン編集委員会 (編集)
- 抗がん薬調製マニュアル: 抗悪性腫瘍剤の院内取扱い指針第3版 / 遠藤一司 (他編著)
- 訪問看護業務の手引: 介護保険・医療保険平成26年4月版 / 社会保険研究所 (編)
- 訪問看護実務相談 Q&A 平成26年度改訂版 / 全国訪問看護事業協会 (編)
- 裸のプレゼンター: 「自然さ」とインパクトのあるプレゼンのための心得 / ガー・レイノルズ (著)、熊谷小百合 (訳)
- プレゼンテーション Zen: プレゼンの

デザインと伝え方に関するシンプルなアイデア第2版 / ガー・レイノルズ (著)、熊谷小百合 (訳)

### 《別冊・増刊号》

- 別冊医学のあゆみ骨粗鬆症: 研究と臨床の最新動向 / 杉本利嗣 (編)
- 別冊 NHK きょうの健康 前立腺がん 自分の生活に合った治療を選ぶ / 穎川晋 (総監)
- リハビリナース2014年秋季増刊 リハビリナースのための超重要疾患マスターブック / 目谷浩通 (他編)
- こころの科学 HUMAN MIND SPECIAL ISSUE 2014 遺伝子診断の未来と罣 / 増井徹 (他編)

## 私の趣味

### 似顔絵への挑戦

近森病院薬剤部  
薬剤師 安岡里紗



……と続けているうちに友人達の似顔絵を一通り描き上げることができました。憧れる絵描きさんのように流暢な手つきでは描きませんが、友人の笑顔やイメージを思い浮かべながらマイペースな作業で仕上げた似顔絵を喜んでもらったのはとても嬉しかったです。

誕生日企画がきっかけで、結婚式のウェルカムボードをリクエストしてもらえたこともありました。他の友人に仕上げを手伝ってもらったり、祝いのお役に立てたこと、似顔絵を通じ素敵な思い出になりました。

いつの日かきちんと絵を習うことが小さな目標です。趣味として楽しく挑戦し、これからもみんなの笑顔を描きたいと思っています。

やすおか りさ



近森病院へ就職し社会人になって2年目頃のことでしたが「職場の同い年の友人達の誕生日プレゼントに似顔絵を描いてみないか?」という企画が持ち上がり挑戦することになりました。

初めは何となく似ている感じになれば!と描き始めた似顔絵でしたが、プレゼントした友人にとっても喜んでもらえ、次の友人の誕生日も

第1回 PAD・糖尿病足病変セミナー 2014年10月1日



# チーム医療による 集学的治療の現状

近森病院循環器内科  
部長 関 秀一

10月1日、院内外の医師、コメディカル総勢97名が参加し、「第1回 PAD・糖尿病足病変セミナー」が盛大に開催されました。

PAD（末梢動脈疾患）とは、主として下肢動脈の動脈硬化性病変による循環障害（冷感、しびれ感、疼痛、壊死など）を来した病態をいいます。

足に壊死が生じる重症下肢虚血に陥ると、血流を再開する治療を行わなければ、下肢切断に至ります。当科でのカテーテル治療（EVT）は年々増加し、昨年の施行数は372件にのぼっており、日本心血管インターベンション治療学会の発表で全国7位でした。

いかに重症下肢虚血の患者さんの救済を行っているか……、当院の誇るべき、チーム医療による集学的治療の現状を、形成外科（杉田直哉）、腎臓内

科（吉村和修）、循環器内科（今井龍一郎）、生理検査技師（池内梨沙）、フットケア技師（川田愛弓）、理学療法士（田中賢太郎）、薬剤師（大年加純）、糖尿



病看護認定看護師（岩井千代美）、管理栄養士（中西花）より報告させていただきました。

せき しゅういち

▼97名が参加して盛大に開催されました



## ワッペン、バッジ、広報誌あれこれ

### ホットライン

月1回作成しているホットラインは、各医療機関の方々などに向けて配布させていただいており、内容は、新しく着任された医師や近森会グループ内の連携窓口の紹介が中心です。

ホットラインを情報配信ツールの一つとして活用し、病院・診療所への訪問活動や高知県地域医療連携ネットワーク会などを通じて医療機関同士でコミュニケーションを取り、さらに高知の医療を良くするべく、地域の先生方と協力し合って頑張っていきたいと思えます。

近森病院 地域医療連携センター

2014年9月号 No.149  
近森病院 地域医療連携センター  
TEL 088-822-5231 内線 2180 FAX 088-871-7404

2014年10月号 No.149  
近森病院 地域医療連携センター  
TEL 088-822-5231 内線 2180 FAX 088-871-7404

★医師のご紹介

2014年8月より種多けんみん病院より、近森病院循環器内科に転任してまいりました、今村春一といひます。

2006年に高知大学を卒業し、2008年より老年病科に入局しました。近森病院には2010年7月～2011年8月まで勤務し、3年ぶりに帰ってきました。3年ぶりに帰ってきた近森病院は、病院の規模が大きくなり、医師や職員の数も増えており、驚くばかりです。日々、最新の診断学、治療法を学ばせて頂いております。

高知県は全国有数の高齢県ということもあり、患者さんの併存疾患も多岐に渡り、エビデンスだけでは解決できない問題も多いと思います。種多地方も高齢化が進んでおり、年齢や患者背景から治療に悩む症例を多数経験してきました。また、身寄りのない方もたくさんおり、治療に困ることもありました。

しかし、これらの問題はかかりつけの先生方と綿密に連携をとることで、少しでも解決することもあるということをご地域医療で学ばせて頂きました。

今後とも前医での経験を生かし、先生方や患者さんに信頼される医師を目指して、日々努力をしていきたいと思っております。御指導の程、何卒宜しくお願い致します。

●オープンシステムご利用状況 (2014年8月)	
※データは近森病院分です	
紹介患者数	262 (登録医 91 / 他 135)
入院患者数	72 (登録医 14 / 他 37)
即日入院患者数	39 (登録医 4 / 他 13)
退院患者数	65 (18)
総紹介患者数	919
総紹介医療機関数	292
総紹介入院患者数	107

( )内は地域医療連携センター利用の紹介患者数、即日入院は再掲診療情報提供などご入用の際にはいつでも地域医療連携センターにご連絡ください、すぐご返信いたします。



## 第12回・四国血管内イメージング研究会

医師や医療スタッフのために  
教育的で楽しめる企画を計画近森病院循環器内科  
主任部長 川井 和哉

このたび、カテーテル治療のライブデモンストレーションコース（第12回四国血管内イメージング研究会）を高知県で初めて開催させていただきました。

循環器チームで相談し、四国各県から集まる循環器内科医師、コメディカルスタッフのために教育的で楽しめる企画を計画しました。5月の院内ライブの経験がとても役に立ちました。術者と会場の座長やコメンテーターが議論し、治療方針を決め手技を進めてい

きました。

当日は166名（医師60名）の参加があり大盛況でした。また、同時におこなった院内見学ツアーも40名のコメディカルスタッフが参加して大好評でした。ライブは8例すべてが合併症もなく治療に成功しました。スタッフ全員参加の近森病院らしいライブでした。

緊張するなかで素晴らしい手技を行っていただいた術者、ご講演いただいた先生方、準備・協力していただい



川井 和哉

## オペレーター

細田 勇人（近森病院）  
日浅 豪先生（愛媛県立中央病院）  
村上 和司先生（香川大学医学部）  
竹谷 善雄先生（四国こどもとおとなの医療センター）  
西田 幸司（近森病院）  
岸 宏一先生（徳島赤十字病院）  
關 秀一（近森病院）

## ランチョンセミナー

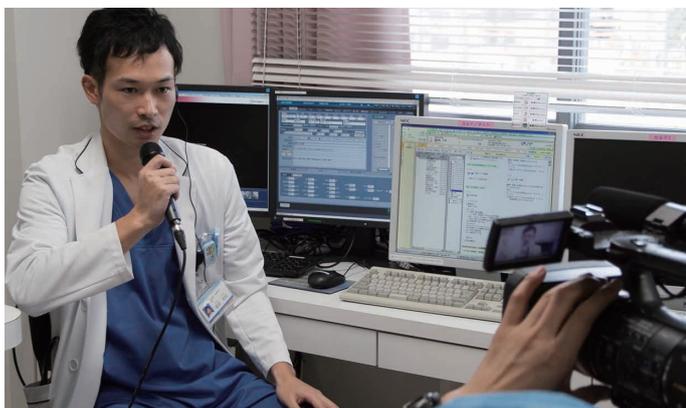
日比 潔先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

## 特別講演

木村 祐之先生（せのお循環器内科・心臓血管外科）

た皆さん、そして、なによりも協力していただいた患者さんに心からお礼を申し上げます。

これからもライブ中継の機会は増えると思いますので、ご協力をお願いいたします。 かわい かずや



見学ツアーも質問が飛び交った



カテーテル室での映像が会議室へ生中継される



## お弁当拝見 27

## 妻に感謝

近森病院 ICU 看護師  
徳橋 晃樹

私は入職してから日勤の時には必ずとっていいほど妻の作ったお弁当を持参しています。妻の作る物が好きというのがありますが、市販の物はどうしても野菜が少なくバランスも悪くなりますし、あんまり好きになれません。

写真を見ても分かる通り、妻のお弁当

はバランスやいりどりも考えてくれているし、なによりも美味しい！ 妻が夜勤のときは自分で作ったりしますが、冷凍食品などを使うので味はいまひとつです。

作るのが出勤時間に間に合わないときには病棟まで届けてくれたり、時には夜



勤のお弁当も作ってくれますのでありがたい限りです。いつもいろいろ考え、美味しいお弁当を作ってくれてほんとうに感謝です。ありがとうございます。

とくはし こうき

# PS AWARD 2014 受賞者 五十音順

皆さんたくさんの投票ありがとうございました。PS AWARD 2014の受賞は下記の8名で決定しました。おめでとうございます。この方々は近森会グループでとくに対応や身だしなみが素晴らしいと評価され選ばれました。一部抜粋ですが、推薦理由も合わせてご覧ください。



小原 絵理さん

北館 5・6階 看護師

- ・スタッフや患者さんに関係なくいつも丁寧な言葉づかいで対応しているからです。
- ・患者さんはもちろん、先輩・後輩、職種関係なく敬語で対応している。



鍵本 由紀さん

総務課

- ・いつも忙しそうなのに、嫌な顔せず、丁寧で確実な対応をしてくれる。大好きです。
- ・理不尽な状況だろうが、いとも笑顔で絶やさないうこと。



川久保 和子さん

北館 5・6階 看護師

- ・いつも元気で患者さんやご家族への対応はもちろん、スタッフに対しても気持ちよく対応してくれます。お手本となる上司です。
- ・職員に対しても積極的に挨拶をしている姿をよく見かけます。



澤田 和幸さん

四国管材

- 外来センター警備員
- ・誰にでも笑顔で声をかけている姿が素晴らしい。
- ・職員でも、患者さんでも、通りすがりの人でも、誰にでもいつも笑顔で挨拶をしてくれるので、気持ちがいいです。



仲 綾香さん

本館 8A 看護師

- ・笑顔がかわいく、患者さんやスタッフに対しても優しく話してくれます。
- ・いつも嫌な顔せず、仕事を引き受けてくれて仲さんのおかげで仕事がスムーズに進みます。



中岡 洋子さん

循環器内科 医師

- ・忙しいときも含めて誰に対しても対応がいつも丁寧。
- ・普段、ご一緒にお仕事することがなく、すれ違う時に挨拶を交わす程度ですが、中岡先生の柔らかい雰囲気癒されます。



橋詰 佳奈さん

近森病院 理学療法士

- ・いつも一生懸命。笑顔で患者さんやご家族、スタッフの間でコミュニケーションが図られている。
- ・笑顔が素敵。患者さんへの対応が良い。



村上 由高さん

四国管材

- 施設管理センター
- ・いつも丁寧な態度、言動、対応をしてくださっています。
- ・誰に対しても笑顔で挨拶をしていて、とても感じの良い方なので。

## PS サポーターより

この度はPS AWARD2014にご協力いただきありがとうございました。今回授賞された方々以外にも本当に多くの方々に票が集まり、素敵なコメントがたくさん寄せられ、開票作業をした私達PS サポーターはとても温かな気持ちになりました。

この企画は、私達が近森会グループのPS サポーターと認定され、初めて企画し稟議書を提出して行なった正式な企画です。去年の段階で企画立案し実現に向け計画を立てていきましたが、様々な問題に直面し実現に時間を要しました。稟議書を提出した時はこの企画が通るかどうかが不安がありましたが、理事長や管理部長をはじめ多くの方々の支えがあり実現しました。

正直PS サポーターの認知度は低く、はっきりとした活動も行なえていませんでした。しかし、今回PS AWARDを行なう事ができて認知度は上がり活動の突破口も開いたのではないかと思います。

今後も色々な角度からPS サポーターの活動を行っていききたいと思います。皆さんで良い所に気付き、お互い高め合いながら、一緒に楽しい素敵な職場作りをしていきましょう！そしてまた、PS AWARD 2015でお会いしましょう！

PS サポーター 1期生 池澤友朗/岡林万喜/五十嵐久美/山口真美/田村淳也

# 緻密で、しかも 鷹揚な読書家

## 理想の医療環境を創る好循環

世界には3,900万人の失明者がおり、インドでは原因の60%が白内障といわれている。「アラヴィンド眼科医院」では、患者は無料か有料かの治療を選択できる。多くの患者を診ることで低コストになり、医療の質を高めることで患者の満足度と信頼度が高まり経営が安定する。このインドの眼科医ドクターVのドキュメント『ビジョナリーであるということ—慈悲とビジネスをむすんだ奇跡の組織アラヴィンドの物語』が、読書好きな杉田科長の近ごろ気になる一冊になっている。

厳しい環境であっても、外資に頼ることなく赤字を出さず、効率化や医療の質の向上を図ることによって理想の医療環境を創りあげる実話は、科長によると「医療人としての価値観を変えるおススメの本」だという。

次は、イングランドのプロサッカーチーム「チェルシー」の話。このチームは名物監督モウリーニョの復帰によって、シーズン優勝の大本命に返り咲いた。この監督のマネジメント力をあれこれ想像するだけで、いつものサッカーの試合が、格段に面白く観戦できる！らしい……。

## 感情曲線が上下に波打たない先生

杉田科長の趣味の話は、こんな感じでビジネススクールの講義めいているが、それが組織力をあげるために求められる中間管理職の立ち位置の話題へといつの間にか繋がり、「客観視と、全体のバランスを取るのが自分の役割。それが今できているかどうかはにおいて……」と、結局、仕事の話へ落ち着いた。

周りのスタッフが杉田科長のことを「穏やかで何かあっても慌てない。落ち着いているというか、感情曲線が上下に波打たない先生」と見るのも、こんな息抜きの趣味であるはずの話が仕事へ繋がるような、「どこか緻密な印象」と関係があるのかも知れない。

「アップダウンがないように努力しているつもりはないが、昔から自分は

こんなだったような……」のには、それなりの原因があるのだろうか。奈良で過ごした子ども時代の記憶と、現在の何ごとにも冷静沈着な在りようはどこかで繋がるのかも知れない。形成外科適応の大きな外傷の患者さんには、感情抑揚のあまり見えない科長の鷹揚さは、どっしりとした頼り甲斐のある先生に映るに違いない。

医学部を志すようになったきっかけは憶えていないそうだが、昔から本好きだった直哉少年に野口英世の伝記や『ブラック・ジャック』が影響を与えたのは想像がつく。

## 市田会と、「にくを食べる会」

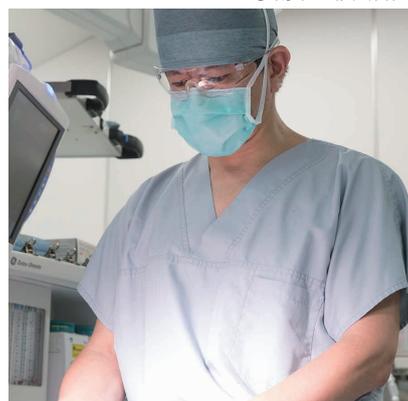
「派手なことや目立つことが好きでない」そうだが、市田竜也後期研修医を囲む「市田会」を月一で「勝手に企画！」し、毎月29日には「にくを食べる会」を催して、多職種での楽しい



▲市田会でワイワイ楽しく

情報交換にも努めている。

形成外科での専門は顔面骨折や熱傷などの外傷、難治性潰瘍や褥瘡など慢性の傷、そしてレーザー治療も行なう。傷を完全に元通りに治すことは難しい場合もあるが、「完璧を求めてはいるけど、少しでも良くなれば喜んでもらえるというか、何しろ患者さんに喜ばれることが救い」と語る科長の表情は、本当に嬉しそうで優しい目で……。感情曲線の上下をあまり見せないという科長の満面の笑みは、それだけで周りの空気を和ませるのではないだろうか。ハニカムのように、「田舎のお年寄りど過ごせる時間は幸せ」と語る杉田科長には、ニヒルな二枚目というよりオドケル三枚目がピッタリな親しみやすささえ窺える。



▼イギリスのシンガーソングライター、エド・シーランと同じポーズで、愛猫モルト（オス4歳）と



## ポーカーフェイスの下の努力

一方で、杉田科長は昼食を摂ることを止め、朝食はシリアルと飲み物とヨーグルト中心のメニューに決めているとか。夜も過剰摂取をしないよう気をつけるなど、イチロー選手のストイックさを意識されている風なものもステキだ。

身体を調べておくことは医療人としての務めだから、週に一度だけでもスポーツジムに通い汗を流そうとしている。メンタルにも影響するから身体の鍛錬を怠りたくないのだ。ポーカーフェイスはやっぱりそれなりの努力の賜物なのだろう。

## 編集室通信

8月の異動で総務課(広報担当)となり、同時にひろっぱ委員に加わりました間崎です。新しいことに挑戦し刻々と変わりゆく院内の様子を、皆様にお伝えしつつ自らも刺激を受ける毎日です。まだまだ経験値の低い私ですが、皆様に伝わり易いひろっぱを作るべく奮闘させていただいております。今後とも宜しくお願い致します。

(はなゆ)

## 和田事務長の

## 田舎から

## その8

## 懐かしい思い出

近森病院総合心療センター  
事務長 和田 廣政

秋も本番です。稲刈りが終わると田舎では秋の神祭が始まります。今日は地区の氏神様の「のぼり立て」で朝から集合しました。1週間後に皆が集まり、お祀



朝から氏神様の「のぼり立て」



りの後は持ち寄ったごちそうを食べるのが楽しみです。20軒少しの小さな地区ですが、協力して仲良く続けてきました。

アケビを採りに久しぶりに山に入りました。子供の頃(昭和40年前後)テレビで放映していたターザン遊びが流行っていて高い木にもスルスルと登り、アケビも簡単に採っていましたが、今では高枝バサミの高さが限界でなかなかうまく採ることができませんでした。

その頃、里山の道はきれいに手入れされていてミカン畑や芋畑が点在し、奥山には炭焼きや植林に通う人の往来があった。昔の子供たちは今と違ってシイの実

◀ 10月19日(日曜日)に行われた秋の神祭



▲ときには庭に出てボーッとするときもあるやニッキの木の根や皮を採りによく山に入っていた。懐かしい思い出です。

わだ ひろまさ



▲昔はよく山に採りに行った「アケビ」

## 乞！熱烈応援

### 人と人との出会いから



近森病院看護部長補佐  
大藪 定子

9月1日から看護部長補佐という職責で、働かせていただいています。

近森病院という大きな組織は、各々が自律して働いているため、私ごときが、何ができるのだろうと思ったのが正直な気持ちです。

しかし「近森病院」という活気ある組織でさまざまな人たちに会い、いい影響を受けあうことができれば、幸せなことだと感謝しながら働かせていただいています。

おおやぶ さだこ

### チームのみんなと 共に歩むことが好き



看護師長  
山中 俊典

高校を卒業してから就職のとき、「プロ野球に入ることが夢でしたが、叶わず近森病院にしました。よろしくお願いします」

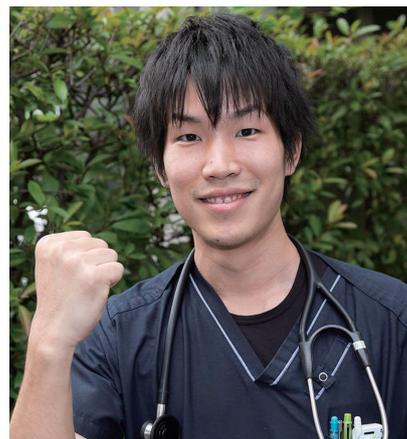
と挨拶してから、今年で22年目になります。就職後も近森野球部に所属し、監督もさせていただきました。

チームをまとめ、いろんな人々と共に歩むことが好きで、それが私の強みだと思っています。これからは病棟看護師長心得として、その強みを発揮していきたいと考えています。

やまなか としのり

## ハッスル研修医

### 立志の秋



初期研修医 谷岡 信寿

研修医1年目の谷岡信寿といいます。1989年、恐るべき平成元年生まれとして高知の最西端、宿毛市の漁村に誕生。幼少期は森の動物達と相撲をとって過ごしたというのは少々ふざけ過ぎですが、何のご縁かこまですと田舎暮らしを続けて明德義塾高校、高知大学を経て近森病院で研修させてもらっています。

研修を始めて気付いたらもう高知は秋真っ盛りという感じです。秋といえば反省の秋。よくよく自分を観察してみると、業務に対する姿勢、自分の生活のなかにまだまだ甘い部分が多いなと感じます。

ところで、皆さんは院内で積極的に階段を使っていますか？ 階段習慣のない人は、ぜひ一緒に生まれ変わらしましょう。移動に階段を使う人が増えれば、足腰の悪い患者さんがエレベーター前で待つ時間を少なくでき、かつ院内で不足しがちな運動量も摂取できるのです。そして何より、先生ウケが……。いい！(笑)

季節は、立志の秋。今期の目標は病院に着いた朝一番、怯むことなく1階から9階の更衣室まで階段で登る習慣を身につけることです。

たにおか のぶひさ

## ワイン講座 ● 25

### ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その②

#### ガメイ

この季節の風物詩と言われるボジョレー・ヌーヴォー。歴史は浅く70年代末に始まったに過ぎず、日本は時差の関係でフランスより早く飲むことが出来ます。そのため日本ではワインビジネスで、いちばんの大当たりをとったのが、この地方のワインです。

ボジョレーを造ることを認められている唯一のぶどうはガメイ種（正式：ガメイ・ノワール・ア・ジュ・ブラン）。一般にフレッシュ＆フルーティでワイン入門編として重要な役割を担っています。しかし、ワイン通の間では、人気はあるが、支持の無い品種といわれがちですが、生産者を選べば、見事なワインに出会うことが出来ます。

また、ボジョレーワインといっても、この地方に優れたワインを産み出す

ムーラン・ナヴァン・クロ・デュ・グラン・カルクラン/シャトー・デ・ジャック/フランス、ブルゴーニュ地方●ムーラン・ナヴァンは風車の意。クリュ・ボジョレーのなかでボジョレーの王様ともいわれ、そのなかでも最高峰と評される単一畑のもの。

10個の村のワイン（クリュ・ボジョレー）のことはあまり知られていません。が、よりかぐわしく甘めで、濃醇で完成度が高いものが多いです。なかでもムーラン・ナヴァン村、モルゴン村のものが最も長寿なワインで、ピノ・ノワールと間違ふことさえ珍しくありません。

2014年は近年では稀に見る年となり、素晴らしいヌーヴォーが楽しめます。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



## 2014年9月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,896人
新入院患者数	857人
退院患者数	843人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	14.55日
地域医療支援病院紹介率	67.54%
地域医療支援病院逆紹介率	148.54%
救急車搬入件数	498件
うち入院件数	260件
手術件数	451件
うち手術室実施	302件
→うち全身麻酔件数	174件

● 平成26年9月 県外出張件数  
件数74件延べ人数148人

# これまでにない広いエリアに高規格手術室を4室増設

## 重症疾患、複雑な外傷に対応！ 重要な中核部門のひとつとして

近森病院麻酔科部長  
兼手術部長 楠目 祥雄



2階手術室エリアは、新しい本館A棟部分の運用を9月初めに開始しました。新しい区画には広く高規格な手術室が四つ加わり、これで全11室のフル稼働となりました。新しい手術室は2室を心臓血管外科手術に、あと2室

を整形外科手術に使用していきます。

### ハイブリッド手術室

これまでと同程度の約8×10mの広い開心術・開腹大血管手術用手術室の他に、更に広い10×12m相当のハイブリッド手術室（高機能放射線透

過装置と手術台を組み合わせた手術室)が配置されました。

同室では、既に他室で行われてきた胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術などの他、今後重症心疾患をもつ更に多くの患者さんに治療の道を拓けていきます。

### 外傷センター用の手術室

整形外科用の広い2室では、近年の高齢化と共に症例数が増加している膝や股、肩などの関節手術や脊椎の手術をよりよい環境で行えるように設計されました。また、外傷センターに多く搬送されてくる骨折の患者さんのなかでも、より複雑な骨折の治療を、この広い高規格の手術室で効率的に行っていくようになります。

これらの大手術を支えるための最新医療機器を多数導入しました。たいへん広い機材庫には、それらが出番を待ちながら格納されています。

近森病院手術室は、救命救急センターの中核部門のひとつとして、県内の重症疾患、外傷に対応するための態勢を整えました。これからもその重大な責務を担っていきます。

くすめ よしお



▲広い高機能放射線透過装置を備えたハイブリッド手術室



▲複雑な骨折の治療にも対応できる広い高規格の手術室  
▼出番を待ちながら手術機材が格納されている広い機材庫

